

CRANE OPERATOR EXAM

2026年10月版

クレーン・デリック運転士 (クレーン限定) 想定問題集

全240問【解説つき】

6

問収録

無料サンプル版
製品版は全240問

SKILL BASE CAMP

本書は非公式の学習教材です。試験を実施する団体の公認・監修を受けたものではありません。
公的機関の公表資料および一般に公開された情報のみに基づき、著者が独自に作成しています。

本書について

本書は、クレーン・デリック運転士（クレーン限定）の想定問題集（全240問）の無料サンプル版です。製品版の構成・難易度・解説の書き方を確認していただくため、6問を抜粋しています。

対象	クレーン・デリック運転士免許試験（クレーン限定）の学科試験の受験者。実技試験は収録していない。デリックに関する知識とデリック関係法令は、クレーン限定の学科試験の範囲から除かれているため、本書にも収録していない
----	--

出題形式	筆記試験。本書は各設問を4択で作成している。本試験の選択肢の数は、確認できた公表資料に記載がないため、本試験と同じ形式とは限らない（購入の前に、この点確かめてほしい）
------	---

収録数	6問（各章の問題のあとに解答・解説）
-----	--------------------

準拠	安全衛生技術試験協会「クレーン・デリック運転士〔クレーン限定〕の紹介」（2026年10月15日取得）と、クレーン・デリック運転士免許試験及び移動式クレーン運転士免許試験規程（昭和47年労働省告示第120号）の試験科目の範囲。中項目レベルの出題範囲は公表されていないため、著者が試験規程の区分に沿って設定した。法令は2026年10月1日時点の内容による
----	---

収録しない論点

次の3つは、公的な資料で正解を確かめられなかったため、本書では出題していない。受験の準備では、別の資料で補ってほしい。

クレーンの構造	クレーンガーダ・脚などの構造形式（ボックスガーダ、トラスガーダ、I形けたなど）とその特徴
---------	--

機械要素

歯車・軸・軸継手・軸受などの種類と特徴

電気の制御

コントローラーの種類（ドラム形、カム形、マグネット式）と制御方式

令和9年4月1日適用の改正は収録していない

令和8年にクレーン構造規格が改正され、天井クレーンの定期自主検査指針にも新しい版が公示された。どちらも令和9年4月1日から適用される。本書は2026年10月1日時点で有効な内容で作っており、改正で変わる点（無線コントローラーに関する規定など）は問わない。令和9年4月1日以降に受験する方は、協会と厚生労働省が公表する最新の内容を確認してほしい。

本試験の形式と時間配分

本試験の学科は、4科目・計40問を、13時30分から16時までの2時間30分で解く。1問あたり平均3分45秒が目安になる。1科目の免除を受ける人（移動式クレーン運転士免許などを持つ人が力学の免除を受ける場合など）は、試験時間が2時間になる。本書は免除の区分を設けず、4科目すべてを収録している。受験の資格は要らず、実技は学科に合格した人が引き続き受ける。日程は各安全衛生技術センターで月に1～2回ほどあり、本書には書かない。申込みの前に、協会が公表する日程と受験案内を確認してほしい。

科目と配点

本試験の出題数は、クレーン及びデリックに関する知識・関係法令・原動機及び電気に関する知識・クレーンの運転のために必要な力学に関する知識の4科目が各10問で、本書もこの比（各25%）に近い配分になっている。

クレーン及びデリックに関する知識

63問

関係法令	63問
------	-----

原動機及び電気に関する知識	58問
---------------	-----

クレーンの運転のために必要な力学に関する知識	56問
------------------------	-----

240問は本試験40問の6回分に当たる。配点は科目で異なり、クレーン30点・関係法令20点・電気30点・力学20点（計100点）で、1問の重みはクレーンと電気が3点、関係法令と力学が2点になる。合格には、科目ごとの得点が40%以上で、かつ合計が60%以上であることが必要で、1科目でも40%に届かなければ合計が高くても合格にならない。

解き方の目安

計算問題は、設問の表に与えた値と、解説に示した式から求める。電気の抵抗・電力や、力学のモーメント・応力・ワイヤロープの張力などでは、答えだけを選ぶのではなく、先に自分で計算してから選択肢を見ると、誤答の原因（比を逆にした、単位を換算し忘れたなど）が分かる。表を読む設問は、先に表の項目と単位を確かめる。関係法令の設問は、つり上げ荷重の区分（たとえば5トン以上か未満か）と、手続の主語（事業者・労働者・登録機関など）を取り違えやすいので、解説の出典で条文を確かめる習慣をつけてほしい。

収録内容

サンプル問題	6問	7
--------	----	---

本書のご利用にあたって

本書をお読みになる前に、以下の事項をご確認ください。ご購入・ご利用をもって、これらに同意いただいたものとみなします。

- 1. 本書は非公式の学習教材です。** クレーン・デリック運転士免許試験（クレーン限定）を実施する機関（公益財団法人 安全衛生技術試験協会）の公認・監修・推奨を受けたものではなく、同機関および関係する事業者と 本書の著者との間に、資本関係・提携関係・その他一切の関係はありません。
- 2. 本書の問題・解説は、すべて著者が独自に作成したものです。** 試験問題を再現・引用したものではありません。また、公式テキスト、講座資料、他社の教材から文章を転載した箇所也没有ありません。作成にあたっては、官公庁等が公表している資料、法令、各種基準など、一般に公開されている情報のみを参照しています。
- 3. 本書は試験に出題される内容を予測・保証するものではありません。** 収録した問題は、公開されている出題範囲をもとに著者が独自に構成した想定問題であり、実際の出題との一致を意図したものでも、保証するものでもありません。本書を学習しても合格を保証するものではありません。
- 4. 内容は制作時点の情報に基づきます。** 本書の法令の内容は2026年10月1日時点のものです。令和9年4月1日適用のクレーン構造規格の改正と天井クレーンの定期自主検査指針の新しい版は収録していません。この分野の制度・基準・法令は改正されます。本書の記述が最新の状況と異なる場合がありますので、実際の受験および実務にあたっては、必ず官公庁等が公表する 一次情報をご確認ください。
- 5. 内容の正確性について。** 著者は内容の正確性に努めていますが、誤りがないことを保証するものではありません。本書の利用によって生じたいかなる損害についても、著者は責任を負いかねます。
- 6. 複製・再配布の禁止。** 本書は購入者ご本人が学習に利用する目的で提供されています。全部または一部を問わず、複製、転載、譲渡、貸与、公衆送信（インター

ネット上での共有・アップロードを含む)、翻案することを禁じます。

7. 商標について。本文中に記載される試験名、団体名、製品名、サービス名は、各社の商標または登録商標です。本文中では™ および® を省略しています。これらの表示は、当該商品・サービスを説明する 目的で用いているものであり、権利者による本書の承認を示すものではありません。

サンプル問題

製品版の構成・難易度・解説の書き方を確認していただくため、全収録問題から抜粋しています。計算問題は、表に与えた値から式を立てて求める形式で出題しており、その例も収めています。

問 1

クレーン及びデリックに関する知識

天井クレーンの型式と構造部分

次の表は、クレーン等安全規則別表のうち天井クレーンの区分を抜き出したものである。表の（ア）～（ウ）に入る語句の組合せとして、最も適切なものはどれか。

天井クレーンの型式と構造部分（クレーン等安全規則別表より）

型式	構造部分
旋回マントロリ式天井クレーン	クレーンガード及び（ア）
すべり出し式天井クレーン	クレーンガード及び（イ）
上の2つ以外の天井クレーン	（ウ）

- A （ア）ジブ （イ）すべり出しけた （ウ）クレーンガード
- B （ア）ジブ （イ）脚 （ウ）クレーンガード及び脚
- C （ア）カンチレバ （イ）すべり出しけた （ウ）クレーンガード及び脚
- D （ア）カンチレバ （イ）脚 （ウ）クレーンガード

問 2

関係法令

設置から使用開始までの手続

A社は、自社工場の建屋内につり上げ荷重10トンの天井クレーンを新たに設置する計画を立てた。A社は、法第88条第1項ただし書の認定を受けていない。設置から使用開始までの手続として、法令に照らして正しいものはどれか。

- A 設置工事の開始の日の14日前までに、クレーン設置届を所轄都道府県労働局長に提出し、設置後は落成検査に合格して検査証を受けてから使用する。
- B 設置工事の開始の日の30日前までに、クレーン設置届を所轄労働基準監督署長に提出し、設置後は落成検査に合格し、検査証を受けてから使用する。
- C 設置工事の開始の日の30日前までに、クレーン設置届を所轄都道府県労働局長に提出し、設置後は試運転を兼ねて落成検査の前から使用する。
- D 設置工事の開始の日の14日前までに、クレーン設置届を所轄労働基準監督署長に提出し、設置後は試運転を兼ねて落成検査の前から使用する。

問 3

関係法令

自主検査・点検の記録

次の表は、クレーン等安全規則第2章第3節（定期自主検査等）に定める自主検査・点検の一部について、行う時期と結果の記録の扱いをまとめたものである。表中の（ア）～（ウ）に入る語句の組合せとして、最も適切なものはどれか。

クレーンの自主検査・点検（抜粋）

区分	行う時期	結果の記録
第34条の定期自主検査	1年以内ごとに1回	（ア）
第36条の作業開始前の点検	その日の作業を開始する前	（イ）
第37条の暴風後等の点検	所定の暴風・地震の後	（ウ）

- A （ア）記録して3年間保存 （イ）記録して3年間保存 （ウ）記録の義務なし
- B （ア）記録して3年間保存 （イ）記録の義務なし （ウ）記録して3年間保存
- C （ア）記録して1年間保存 （イ）記録の義務なし （ウ）記録して1年間保存
- D （ア）記録して1年間保存 （イ）記録して3年間保存 （ウ）記録して3年間保存

問 4

原動機及び電気に関する知識

直列回路の電流

次の表の3つの抵抗を直列に接続し、100 V の直流電源につないだ。回路に流れる電流の値として、正しいものはどれか。

回路の条件

項目	値
抵抗 R1 (Ω)	4
抵抗 R2 (Ω)	6
抵抗 R3 (Ω)	10
電源の電圧 (V)	100

- A 10 A
- B 0.2 A
- C 5 A
- D 2 000 A

問 5

原動機及び電気に関する知識

人体の電気抵抗と体内を流れる電流

交流100Vの充電部に人が触れた場合を考える。人体の電気抵抗を下表のとおりとし、人体以外の抵抗は考えないものとする。通常の状態条件のときと、汗などで皮膚が完全に濡れているときに体内を流れる電流の組合せとして、正しいものはどれか。

皮膚の状態と人体の電気抵抗（交流100Vの充電部に触れた場合）

皮膚の状態	人体の電気抵抗 (Ω)
通常の状態条件	2,000
汗などで皮膚が完全に濡れている	500

- A 通常るとき 50mA、濡れているとき 200mA
- B 通常るとき 50mA、濡れているとき 5mA
- C 通常るとき 20mA、濡れているとき 200mA
- D 通常るとき 20mA、濡れているとき 5mA

問 6

クレーンの運転のために必要な力学に関する知識

天びん棒を支える位置

次の表のように、長さ 1.8 m の天びん棒の両端に質量の異なる荷をつり、肩で担いで天びん棒を水平に保ちたい。荷1をつった端から肩までの水平距離として、正しいものはどれか。ただし、天びん棒の質量は考えないものとする。

天びん棒と荷の条件

項目	値
天びん棒の長さ L (m)	1.8
荷1の質量 m_1 (kg)	50
荷2の質量 m_2 (kg)	40

- A 1.00 m
- B 0.90 m
- C 0.80 m
- D 1.44 m

解答・解説

問 1 正解 A クレーン及びデリックに関する知識 天井クレーンの型式と構造部分

別表は、天井クレーンを型式で3つに分けている。旋回マントロリ式天井クレーンは「クレーンガード及びジブ」、すべり出し式天井クレーンは「クレーンガード及びすべり出しけた」、この2つ以外の天井クレーンは「クレーンガード」だけである。したがって A が正しい。

他の選択肢 B は（イ）と（ウ）が誤り。すべり出し式天井クレーンの構造部分は脚ではなくすべり出しけたであり、上の2つ以外の天井クレーンに脚は掲げられていない。C は（ア）と（ウ）が誤り。天井クレーンの欄には、どの型式にもカンチレバは掲げられておらず、上の2つ以外の天井クレーンの構造部分はクレーンガードだけで脚を含まない。D は（ア）と（イ）が誤り。旋回マントロリ式天井クレーンはカンチレバではなくジブを、すべり出し式天井クレーンは脚ではなくすべり出しけたを、クレーンガードとともに構造部分とする。

出典 クレーン等安全規則 別表（クレーン・天井クレーンの欄）

問 2 正解 B 関係法令 設置から使用開始までの手続

設置届は、法第88条第1項により**工事の開始の日の30日前までに**届け出るもので、提出先はクレーン則第5条により**所轄労働基準監督署長**である。設置した者は、クレーン則第6条第1項により**所轄労働基準監督署長の落成検査**を受けなければならない（署長が検査の必要がないと認めたクレーンを除く。同項ただし書）。クレーン検査証は、落成検査に合格したクレーン又は同項ただし書のクレーンについて交付される（第9条第1項）。検査証を受けていない特定機械等は使用できない（法第40条第1項）。したがって **B** が正しい。

他の選択肢 A は誤り。期限は30日前までで、提出先は労働基準監督署長である。C は誤り。提出先が違い、落成検査を受ける前に使用することもできない。D は誤り。14日前は法第88条第3項の建設業等の仕事の計画の届出期限で、クレーンの設置届の期限ではない。落成検査前の使用もできない。

出典 労働安全衛生法 第40条第1項・第88条第1項、クレーン等安全規則 第5条・第6条第1項・第9条第1項

問 3 正解 B 関係法令 自主検査・点検の記録

第38条は、第3節に定める自主検査及び点検の結果を記録し、3年間保存することを求めている。ただし、第36条の作業開始前の点検は除かれている。

第38条による記録の扱い

区分	結果の記録
第34条（1年以内ごと）	3年間保存
第35条（1月以内ごと）	3年間保存
第36条（作業開始前）	記録の義務なし
第37条（暴風後・地震後）	3年間保存

したがって **B** が正しい。

他の選択肢 A は誤り。第36条の点検は第38条の記録から除かれ、第37条の点検は除かれていない。C は誤り。保存期間は3年間である。D は誤り。保存期間は3年間で、第36条の点検は記録の対象から除かれている。

出典 クレーン等安全規則 第38条、第34条第1項、第36条、第37条

問 4 正解 C 原動機及び電気に関する知識 直列回路の電流

直列に接続した抵抗の**合成抵抗**は、各抵抗の和（ $R=R_1+R_2+R_3$ ）になる。直列回路では各抵抗に同じ電流が流れるので、合成抵抗と電源の電圧からオームの法則で電流を求める。

計算

段	式	値
合成抵抗（Ω）	$4 + 6 + 10 = 20$	20
電流（A）	$100 \div 20 = 5$	5

したがって C が正しい。

他の選択肢 A は誤り。R3 だけで計算した値（ $100 \div 10 = 10$ ）である。B は誤り。合成抵抗を電圧で割った値（ $20 \div 100 = 0.2$ ）である。D は誤り。電圧と合成抵抗を掛けた値（ $100 \times 20 = 2\,000$ ）で、オームの法則の式（ $I=V/R$ ）になっていない。

出典 東京都江戸川職業能力開発センター「電気回路の基礎 その3」（直列接続の合成抵抗）／東北学院大学工学部「メカトロニクス基礎 第05回」直列つなぎ（直列合成抵抗）

問 5 正解 A 原動機及び電気に関する知識 人体の電気抵抗と体内を流れる電流

体内を流れる電流は、オームの法則（電流＝電圧÷抵抗）で求める。

体内を流れる電流の計算

皮膚の状態	計算	電流
通常の状態条件	$100 \div 2,000 = 0.05\text{A}$	50mA
皮膚が完全に濡れている	$100 \div 500 = 0.2\text{A}$	200mA

したがって A が正しい。

他の選択肢 B・D の「5mA」は、抵抗を電圧で割った値（ $500 \div 100 = 5$ ）を電流と取り違えたもの。C・D の「20mA」も同じ取り違い（ $2,000 \div 100 = 20$ ）による。

出典 労働安全衛生総合研究所「感電の基礎と過去30年間の死亡災害の統計」1.2.2 人体の電気抵抗

問 6 正解 C クレーンの運転のために必要な力学に関する知識 天びん棒を支える位置
肩のまわりのモーメントのつり合い $m_1 \times L_1 = m_2 \times L_2$ と、 $L_1 + L_2 = L$ から
 L_1 を求める。

計算

段	式	値
$m_1 + m_2$ (kg)	$50 + 40 = 90$	90
L_1 (m)	$40 \times 1.8 \div 90 = 0.80$	0.80
L_2 (m)	$1.8 - 0.80 = 1.00$	1.00
検算 (モーメント)	$50 \times 0.80 = 40 \times 1.00$	$40 = 40$

軽い荷2の側の腕を 1.00 m と長くとり、重い荷1の側を 0.80 m と短くとれば水平になる。したがって C が正しい。

他の選択肢 A は誤り。 $m_1 \div (m_1 + m_2) \times L = 50 \div 90 \times 1.8 = 1.00$ で、質量の比を逆に当てており、荷2の端から肩までの距離に当たる。B は誤り。天びん棒の中央 ($1.8 \div 2 = 0.90$) で、両方の荷の質量が等しい場合の位置である。D は誤り。 $m_2 \div m_1 \times L = 40 \div 50 \times 1.8 = 1.44$ で、分母に2つの荷の質量の和をとっていない。

出典 厚生労働省「玉掛け技能講習 補助テキスト」第2章 1.4 力の釣り合い（平行力の釣り合い、図 2-6・式(1)～(6)）

本章の出典

- ・ 労働安全衛生法及び同法施行令の施行について（昭和47年9月18日 基発第602号）
- ・ クレーン等安全規則（昭和47年労働省令第34号）第1条・別表
- ・ クレーン構造規格（平成7年労働省告示第134号）
- ・ クレーン構造規格及び移動式クレーン構造規格の適用について（平成8年2月1日 基発第47号）
- ・ 床上操作式クレーン運転技能講習 外国人向け補助教材（厚生労働省）
- ・ 労働安全衛生法（昭和47年法律第57号）e-Gov 法令検索収録版（2026年10月1日時点）
- ・ 労働安全衛生法施行令（昭和47年政令第318号）e-Gov 法令検索収録版（2026年10月1日時点）
- ・ クレーン等安全規則（昭和47年労働省令第34号）e-Gov 法令検索収録版（2026年10月1日時点）
- ・ クレーン等安全規則（昭和47年労働省令第34号）e-Gov 法令検索収録版（2026年10月1日時点）第2章第2節・第3節、第8章第1節
- ・ 農林水産省「電気設備計画設計技術指針（高低圧編）」付録 用語集・電気基礎（平成19年）
- ・ 農林水産省「電気設備計画設計技術指針（高低圧編）」4.1～4.3 施工設計・機器の配置と据付・ケーブルと電線の選定（平成19年）
- ・ 電気設備に関する技術基準を定める省令（平成9年通商産業省令第52号）e-Gov 法令検索収録版（2026年10月1日時点）
- ・ 計量単位令（平成4年政令第357号）e-Gov 法令検索収録版（2026年10月1日時点）
- ・ 文部科学省「高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 理科編 理数編」
- ・ 東北学院大学工学部「メカトロニクス基礎 第05回 抵抗の直列・並列と分圧・分流」（講義資料 Rev 18-1.0）
- ・ 東京都江戸川職業能力開発センター「電気回路の基礎 その3」（職業訓練の教材）
- ・ 日本クレーン協会 講座「電動機の技術」第1回 電磁気と電気回路（『クレーン』第60巻4号、2022年）
- ・ 日本クレーン協会 講座「電動機の技術」第5回 誘導電動機
- ・ 労働安全衛生規則（昭和47年労働省令第32号）e-Gov 法令検索収録版（2026年10月1日時点）
- ・ 天井クレーンの定期自主検査指針（昭和60年12月18日 自主検査指針公示第8号。2026年10月1日時点で有効な版）

-
- 天井クレーンの定期自主検査指針（令和8年4月30日 自主検査指針公示第29号。令和9年4月1日適用）
 - 農林水産省「電気設備計画設計技術指針（高低圧編）」4.5 接地工事ほか（平成19年）
 - 農林水産省「電気設備計画設計技術指針（高低圧編）」第6章 電気設備の保全（平成19年）
 - 独立行政法人 労働安全衛生総合研究所「感電の基礎と過去30年間の死亡災害の統計」（安全資料 SD-No.25）
 - 海上技術安全研究所 平田宏一「わかりやすい力学と機械強度設計法」（2007年）
 - 厚生労働省「玉掛け技能講習 補助テキスト」（令和元年度委託事業）
 - 林野庁「林業架線作業に必要な基礎力学」（参考資料1）
 - 沼津工業高等専門学校 駒佳明「物理I 講義録 力学基礎編」（2022年）
 - 高齢・障害・求職者雇用支援機構『技能と技術』2016年3号「スケールの違いから摩擦を考える」

いずれも公的機関等が公表している資料です。制度は改正されるため、受験にあたっては必ず最新版をご確認ください。

クレーン・デリック運転士（クレーン限定） 想定問題集

2026年10月版（第1版）

発行：Skill Base Camp <https://skillbasecamp.com>

本書は非公式の学習教材であり、試験を実施する団体の公認・監修を受けたものではありません。

内容は公開情報に基づき著者が独自に作成しています。制作時点の情報に基づくため、制度の最新の状況は一次情報をご確認ください。

文中に記載される試験名・団体名・製品名は、各社の商標または登録商標です。本文中では ™ および ® を省略しています。